

(2) 令和6年度月別の気象概況

4 月	<p>上旬：低気圧・前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となる日もあったが、期間のはじめと終わりは高気圧に覆われて晴れの日もあった。</p> <p>なお、4日には東京でさくらの満開を観測した。</p> <p>中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間のはじめと終わりに湿った空気の影響で曇りや雨の日もあった。</p> <p>下旬：前半は、オホーツク海に中心を持つ高気圧からの湿った空気や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、後半は、高気圧と低気圧が交互に通り返り短い周期で変わった。</p>
5 月	<p>上旬：前線や低気圧と高気圧が交互に通り返り、数日の周期で変化した。また、期間中の気温の変動が大きく、気温がかなり高い日と気温がかなり低い日があった。</p> <p>中旬：高気圧と低気圧が交互に通過し数日の周期で変化した。東京の旬平均気温は高く、旬間日照時間は平年並、旬降水量はかなり多くなった。</p> <p>下旬：前半は高気圧に覆われ薄曇りや晴れの日が続き、後半は、前線を伴った低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなった。</p>
6 月	<p>上旬：期間のはじめは気圧の谷や上空の寒気の影響で曇りや雨となり、雷を伴って大雨となる日もあった。期間の中頃は高気圧に覆われて晴れまたは曇りとなったが、期間の終わりは低気圧や前線の影響で曇りや雨となった。</p> <p>中旬：この期間の平均気温はかなり高く、日照時間もかなり多く、その上降水量まで多くなった。</p> <p>下旬：前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなった。特に21日と28日は本州付近を低気圧が東に進んだ影響で大雨となった。</p> <p>なお、関東甲信地方では6月21日ごろ梅雨入りしたと見られる(速報値)。</p>

7 月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、前線や湿った空気の影響で雨の降る日があり、6日は雷を伴って大雨となった。期間を通して暖かい空気に覆われたため、気温のかなり高い日が多くなった。</p> <p>中旬：期間の中頃までは前線の影響で曇りや雨の日が多く、期間の終わりは高気圧に覆われ晴れたが、20日の夜は雷を伴い大雨となった。関東甲信地方は7月18日ごろ梅雨明けしたとみられる（速報値）。</p> <p>下旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、気圧の谷や湿った空気の影響で雨や雷雨となる日もあり、31日は大雨となった。24日は多摩地方で突風が発生し倒木などの被害があった。期間を通して暖かい空気に覆われたため、気温のかなり高い日が多くなった。</p>
8 月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間の後半は湿った空気の影響で雨の降る日があった。7日は雷を伴って大雨となった。</p> <p>中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間の後半は台風や湿った空気の影響で雨や雷雨となる日もあった。16日は台風第7号の影響で大雨となった。</p> <p>下旬：晴れた日もあったが、期間を通して湿った空気の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多く、雷を伴う日もあった。29日から30日にかけては台風第10号の周辺や太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気が流れ込んだため大雨となり、都内で浸水等の被害があった。</p>
9 月	<p>上旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間のはじめに台風第10号を回る湿った空気や前線の影響で曇りや雷雨の日もあった。</p> <p>中旬：高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、前線や湿った空気の影響で雨や雷雨となる日があり、特に15日には大雨となった。期間を通して暖かい空気に覆われたため気温のかなり高い日が続いた。</p> <p>下旬：低気圧や前線、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなった。</p>
10 月	<p>上旬：晴れの日もあったが、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、特に8日は大雨になった。</p> <p>中旬：期間の前半は高気圧に覆われて概ね晴れたが、後半は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなった。暖かい空気に覆われたため、気温のかなり高い日が多くなった。</p> <p>下旬：前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、29日の夜は大雨となったが、期間の始めと終わりは、高気圧に覆われ晴れの日もあった。</p>

1 1 月	<p>上旬：高気圧と低気圧・前線が交互に通過し短い周期で変化した。7日は西高東低の冬型の気圧配置となり北西の風が強まったため、東京地方では「木枯らし1号」が吹いた。</p> <p>中旬：高気圧と低気圧・前線が交互に通過したため、短い周期で変化した。中頃までは暖かい空気に覆われたため気温がかなり高い日が続いたが、終わりは寒気が流れ込んだため気温のかなり低い日があり、気温の変動が大きくなった。</p> <p>下旬：西高東低の気圧配置や高気圧に覆われ晴れの日が多く、21日は湿った空気の影響で、26日から27日にかけては前線の影響で雨となった。</p>
1 2 月	<p>上旬：冬型の気圧配置や高気圧に覆われ晴れの日が続いた。9日に初霜（平年より14日早く、昨年より7日遅い）と初氷（平年より15日早く、昨年より13日早い）を観測した。</p> <p>中旬：冬型の気圧配置が続いたため晴れの日が多くなったが、気圧の谷や寒気の影響で雨または雪の降る日があった。19日に初雪を観測した（平年より15日早く、昨冬より25日早い）。</p> <p>下旬：冬型の気圧配置や高気圧に覆われ晴れの日が続いた。</p>
1 月	<p>上旬：冬型の気圧配置となり晴れの日が多くなったが、3日と6日から7日にかけては、低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨となった。</p> <p>中旬：冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨となる日があった。</p> <p>下旬：冬型の気圧配置や高気圧に覆われておおむね晴れの日となったが、期間の中頃に湿った空気の影響で雨の降った日もあった。</p>
2 月	<p>上旬：期間のはじめに前線を伴った低気圧の影響で雨の日があった後は、冬型の気圧配置が続いたため、おおむね晴れた。</p> <p>中旬：冬型の気圧配置や高気圧に覆われておおむね晴れの日が続いた。</p> <p>下旬：前半は冬型の気圧配置で、後半は高気圧に覆われて、晴れの日が続いた。</p>

3 月	<p>上旬：この期間の天気は、高気圧と低気圧が交互に通過し、数日の周期で変化した。3 日から 5 日にかけてと 8 日夜には本州の南岸を通過した低気圧の影響で東京では雪が降り、4 日と 5 日は日最深積雪 1 センチを観測した。</p> <p>期間を通して気温の変動が大きくなった。</p> <p>東京の旬平均気温は平年並、旬間日照時間は少なく、旬降水量は多くなった。</p> <p>中旬：この期間の天気は、周期的に変化した。19 日は、気温が平年よりかなり低く雪がふり雷とひょうを伴った。東京の旬平均気温は平年並、旬間日照時間は少なく、旬降水量はかなり多くなった。</p> <p>下旬：この期間は、おおむね高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、期間の終わりは、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨になった。</p> <p>期間の始めから中頃は、暖かい空気に覆われ東京では 26 日に 3 月の日最高気温として高いほうから 2 位となる 25.9℃、同じく 28 日には 3 位となる 25.7℃を観測した。一方期間の終わりには、気温のかなり低い日もあり、寒暖の差が大きくなった。</p> <p>なお、東京では、24 日にさくらの開花（平年と同じ、昨年より 5 日早い）を、30 日に満開（平年より 1 日早く、昨年より 5 日早い）を観測した。また、25 日から 26 日にかけて黄砂を観測した。</p> <p>東京の旬平均気温はかなり高く、旬間日照時間は多く、旬降水量は少なくなった。</p>
-----	---